

3. 読みましょう

CD2

読むときのポイント

昔、畳はどう使われていましたか。畳の良さは何ですか。読み取りましょう。

1

畳

日本にきた外国の旅行者が、部屋の中で最も興味を持つのは畳だそうです。住まいの床に使われる材料では非常に珍しいものです。フランスでは日本語が日本人のようによく話せるようになることを、タタミゼ (tatamiser) と言いますが、それほど畳は日本文化を代表するものになっているのです。

昔、畳は今のようには部屋全体に敷くものではありませんでした。どんなに立派な家でも、部屋の床は板張りで、お客さんが来たときだけ畳を置いていました。ちょうど今の座布団のように使われていたのです。使わないときは、何枚も重ねて置いてあったので、「たたみ」という名前がつけられたと言われています。「たたみ」は、やまとことばの「たたむ」から来ていて、重ねるといいう意味があるのです。

畳は、自由に動かせる“家具”でしたから、いろいろ組み合わせたり、たたんだりして、一つの部屋を、お客さんが来たときは客間に、楽しくおしゃべりするときは居間に、昼は仕事部屋に使い分けていました。今も、畳の部屋はいろいろな目的に使われています。

乾いたワラとイグサで作られる畳は呼吸するので、部屋の湿気を取って、空気をきれいにしておくのに役に立ちます。畳の床は硬すぎないし、柔らかすぎないし、素足でいると快適です。それで、日本人には、素足で畳の上を歩けるように、家をいつも清潔にしておきたいと思っている人が多いのです。

(秋岡芳夫監修『発明発見物語全集 15 建築の発明発見物語』)

住まいの始まりから未来都市まで』国土社より、一部を改変して掲載)